駅家中学校だより

よりよく生きる

～時を守り　場を清め　礼を尽くす～

発行　2026年(令和8年)10月
第14号
発行責任者　駅家中学校長

頑張った体育大会！！ ※写真が裏面にあります。

10月9日（金）は体育大会がありました。

たくさんの保護者の方に参観していただきありがとうございました。素晴らしい体育大会だったと思います。また，今回はスマイルサポーターの方に写真をとっていただきました。学校たよりや学年通信においても使わせていただきます。体育大会での学びを今後に生かしていきたいですね。今後ともよろしくお願いいたします。






今年も多くの保護者の方に出場していただき，たくさん応援をいただきました。ありがとうございました。

【校長のひとり言①】
（体育大会）

10月9日秋晴れの中、体育大会を行いました。まさしく雲一つない好天で、残暑に近い暑さと生徒の盛り上がりによる熱で「熱い1日」となりました。

青団団長…藤田哲平君、赤団団長…朝原琥士朗君、黄団団長…眞子貴至君達が中心になり、それぞれの団長をサポートする3年生を中心としたリーダー達が夏休みから体育大会に向け試行錯誤してきました。また、生徒会執行部も今年のテーマの「自律・尊重」をベースに誰もが主役になれる競技種目を考えてきました。

体育大会を行う意義も踏まえ、これまでにない発想で新たな種目や内容に取り組みました。ですので、多少次年度への課題も気づきながら、生徒たちはどこまでも青い空のように最高の体育大会を目指し盛り上がったのではないかと思っています。

体育大会当日のことは学年通信等で触れると思いますのでここでは割愛します。

「ひとり言」…体育大会はどこの学校でも行っています。文化祭や修学旅行など学校行事において大きな行事の一つです。なぜこういった行事を行うのか。「試行錯誤」と言いましたが、そんな一言では語りつくせない「やり取り」があったのではないでしょうか。

「こんなことやりたい」「こうしたらいいのに」と考えるのは十人十色。それをどうやって一つにしていくのか。数年後に社会に出たときに必要な力の一つです。それには、「コミュニケーション」は欠かせない要素の一つです。社会から見ると一学校の体育大会は小さなことかもしれませんが、逆にみると社会の縮図です。トラブルあり、合意あり、様々な状況から当日を迎え、終わった後、悔しくて涙する3年生の姿あり。

やってきたからこその姿ですね。うれしくて、また悔しくて感極まる。そんな経験、その経験のどこをどのように活かしていくかは、本人次第ですが、「よりよい生き方」につなげて欲しいなぁ、と思っていますし、それが行事を行う意義の一つです。

生徒会長の谷田さんのあいさつでも触れていましたが、「次につなげる…」生徒のみんなは、何をつなげるかな？と興味を持っています。

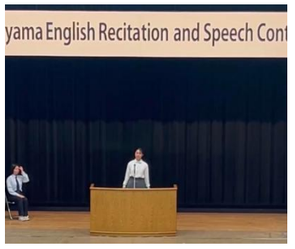
体育大会の次の日には英語暗唱大会がありました。

出場生徒がＡＬＴや英語の先生と一生懸命練習している姿をよく見ました。日頃から英語は授業で習っていますが，何を話すかを考え，暗記し，多くの人前で話をするというは難しいことだと思います。積極的にそのような機会を作り，頑張っている姿はとても素敵でした。










【校長のひとり言②】
（Fukuyama English Recitation and Speech Contest）

体育大会の次の日、10月10日（土）、北部市民センターで英語の暗唱とスピーチコンテストがありました。今年は福山地区の中学生111名が出場しました。

本校から暗唱の部に2年生の部に**後藤颯太君**、**坂根杏奈さん**、3年生の部には**宍戸希帆さん**、スピーチの部で2年生**アチャリア　メニカさんの**4名が出場しました。

暗唱の部は英語の教科書にあるuniteやLet's Readのどこかを選んで暗唱します。ただ暗唱するだけでなく、会話調や表情、表現について，身振り手振りを添えて暗唱します。

スピーチは自分が伝えたい事を英語で話します。当然発音も大切になってきます。日本語さえ怪しい私は、何を言ってるかわからないけどいつも「すごいなあ」「覚えるだけでも大変なのに、表現の仕方もずいぶん練習したんだろうなあ」と感心させられます。

他にも「すごいなぁ」と思うのは、例えば先日の体育大会の団長に立候補したり、このような暗唱大会に出てみようと決意する、その「挑戦心」（正しくない言葉ですが）なのか「克己心」なのか、いろんな事を考えて「決意」したんだろうと想像します。そこも「すごい」と思うのです。（中身は省略します　出た人と話をしてみてください）

その結果は3年生の宍戸さんは3年生の部で**第1位！**　ちなみに宍戸さんは1年生の時にも1年暗唱の部で1位をもらい、県大会に出場しています。ですから2回目の1位ということになります。今年も廿日市市である県大会に出場します。

後藤君、坂根さんは入賞とはなりませんでしたが、隣で一緒に聞いていた別の学校の英語の先生がどちらに対しても「うまい、発音が自然で普通　ええんじゃない？」と。要するに英語を母国語として話す人と同じに聞こえる、という意味だと思いました。それにも「すっごいなぁ～」と感じた次第です。「英語で会話できたらええなぁ」と思うのですが、出川Englishで頑張るか…と思った次第です。

アチャリアさんについては次号で。



